

コミュニティと独居高齢者の生きがいについて

高齢者が自立できる社会形成に関する研究 その6

正会員○久野貴行²
同 中原岳夫²
同 友清貴和¹
同 山下 剛²

1. はじめに

ここでは前編に引き続き、鹿児島市、指宿市、入来町、薩摩町の独居高齢者の調査をもとに、独居高齢者の生きがいについて説明する。

ところで、これまでの研究で独居高齢者は社会の一員として認知されていることが健康の秘訣となっていることがわかった。そこで社会参加を含めた地域のコミュニティに関連する項目から生きがいを分析する。

コミュニティに関連した項目は、地域のあり方に密接に関係している。そのため、各地域ごとに特徴がみられ、その特徴が生きがいに影響を与えるのではないかと考えられる。このため、まずコミュニティに関連した項目を各市町ごとに比較し、その実態を把握・分析する。次に、その各項目と生きがいとの関係を分析する。

コミュニティに関連した項目としては、特に地域社会に関係し、独居高齢者の生きがいに関係があると予想される以下の3つの項目を挙げる。

- ①就業：就業は、労働の代わりに所得を得るという直接の社会参加である。就業自体が習慣になっていると捉えることができるため、生きがいに関係していると考えられる。
- ②隣人関係：隣人は、一人暮らしを営む独居高齢者にとって、地域のコミュニティにおいての最も身近な対人関係となり得るものであるといえる。友人または相談相手となり得る存在ともいえ、生きがいに影響しているのではないかと考えられる。
- ③サークルの参加状況：サークルへの参加は、どのサークルも他人との交流をはかることができることから、地域のコミュニティとの媒体となると考えられる。また、サークルの内容またはそこに参加すること自体が、生きがいになることが考えられる。

2. 調査結果の分析

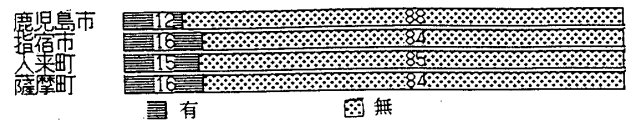
2-1. 就業

2-1-1. 現在の就業状況

就業については実際に収入を得ている人を対象とした。

4市町全体で就業している人は37人で、就業率は14.9%であった。地域別でみると、鹿児島市ではやや就業率

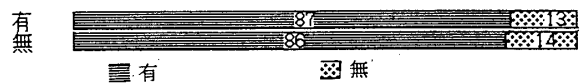
が低い結果となった【図1】。



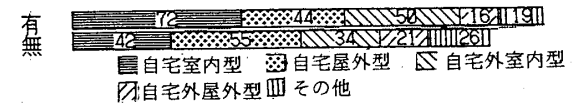
【図1】市町ごとにみる職業の有無

次に就業と生きがいとの関係をみる。就業している37人のうちで就業内容が直接生きがいとなっている人は7人(18.4%)であった。また、就業の有無と生きがいの有無との関係は、ほとんど変わらない【図2】。

生きがいとその活動の場による分類(前編の表2を参照)でみると、有職である人は、無職である人よりも自宅室内型と自宅外室内型の割合が高い【図3】。



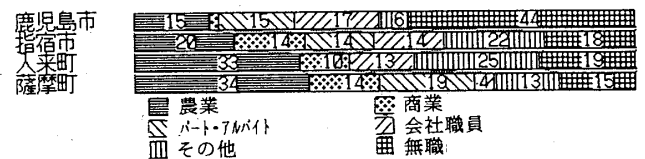
【図2】職業の有無でみた生きがいの有無



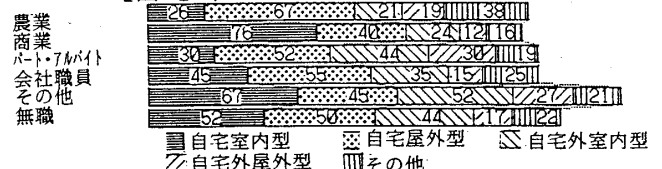
【図3】職業の有無でみた生きがいの場

2-1-2. 従前の職業

従前の職業をみると、農業をしていた人の割合は、農村的性格の強い薩摩町入来町、指宿市、鹿児島市の順に高くなった【図4】。



【図4】市町別にみた従前の職業



【図5】従前の職業でみた生きがいの場

次に、従前の職業と生きがいとの関係をみる。生きがいのその活動の場による分類でみると、農業をしていた人は自宅屋外型の割合が高い【図5】。農業をしていた人

A study on the pleasure of living of the old living alone in their community

A study on the forming society that the old can live themselves part6

Takayuki Hisano, Takeo Nakahara, Takazu Tomokiyo, Gow Yamashita

は、収入を得なくなった現在においても小規模ながら自活する分の仕事を継続していると考察される。そのため、農村的性格の強い地域においては、自宅内屋外型の生きがいを持つことが考察される。

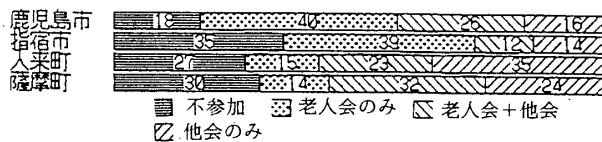
なお従前の職業が商業・サービス業の人においては、自宅室内型の割合が顕著に高くなっている。

2-2. 隣人関係

隣人関係と「親しい」と「まあまあ親しい」を積極的交際とすると、積極的交際をしている人の割合は80.9%と高く、大半の人は隣人と積極的交際をしているといえる。

地域別にみると、鹿児島市において積極的交際の割合が他の3地区より低い【図6】。鹿児島市は他の3地区に比べ都市的性格が極めて高いことに関連していると考察できる。

生きがいと隣人との親しさの間には関係は見いだせなかった。



【図6】市町別にみた隣人関係

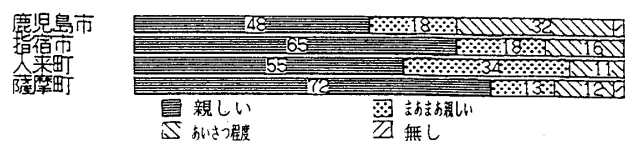
2-3. サークルの参加状況

サークルに不参加である人の割合が最も少なかったのは鹿児島市であった。ここで先に述べた隣人関係を考慮すると、鹿児島市においては、隣人関係においては消極的交際であるが、サークル参加には積極的であると考えられる。

そこでサークルの内容を老人会と他会(老人会以外のサークル)として分類し、分析した。

都市的性格の強い鹿児島市、指宿市においては、老人会主体としてサークル活動を行っている人の割合が高くなり、農村的性格の強い入来町と薩摩町においては他会を主体としたサークル活動をしている人の割合が高くなっている【図7】。

老人会は自治体が高齢者の生きがいづくり等のため育成を促しているサークルといえ、それは一定領域の高齢者を対象としている。農村的性格の強い入来町と薩摩町においては、昔ながらの農村のコミュニティに現在も支えられているため、老人会に不参加でも周囲の人々と良



【図7】地域別にみるサークルの参加状況

好な関係を保っていると考えられる。

よって鹿児島市においては、老人会のあり方が他の地においては、昔ながらの農村のコミュニティに現在も支えられているため、老人会に不参加でも周囲の人々と良区と異なっていると考察される。

次にサークルと生きがいとの関係を見る。生きがいがいない人はサークルへの不参加の割合が高い。サークルの内容でみると、生きがいを持っていない人は老人会のみの参加の割合が高い【図8】。

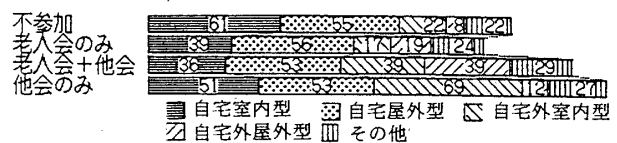
生きがいのその活動の場による分類でみると、自宅室内型はサークルへ不参加の割合が高い。また自宅内で行う生きがいより、自宅外で行う生きがいを持つの方が、他会参加の割合が高くなっている【図9】。これは自宅外での生きがいは、サークルの内容がそのまま生きがいになっていると考察できる。

また、老人会に参加している人のうち、老人会を生きがいと考えている人が6.6%であるのに対して、他会に参加している人で、他会の内容自体を生きがいと感じている人の割合が37.9%であった。

これらのことを考慮すると、独居高齢者はサークルへ参加している方が不参加であるより生きがいを持つが、サークルの内容において、老人会への参加は生きがいには結びつきにくく、他会への参加は生きがいになりやすいと言える。



【図8】サークルの参加状況と生きがいの有無



【図9】サークルの参加状況にみる生きがいの場

3. まとめ

今回取り上げた独居高齢者を取りまくコミュニティの関連項目が地域ごとに異なることがわかった。

また、就業とサークルへの参加は独居高齢者の生きがいに関係していることがわかった。隣人関係においてはその関連性は見いだせなかった。

独居高齢者を取りまくコミュニティは、地域差によって、生きがいを持つにいたる地域のシステムが存在していると考えられる。今後はその地域システムを解明する必要がある。

¹ 鹿児島大学助教授 Assoc., Dept. of Architecture, Faculty of Engineering, Univ. of Kagoshima, Dr. Eng.
² 鹿児島大学大学院 Graduate School, Univ. of Kagoshima